第十四講・文学的文章⑧

一題目　**次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。**

三上くんの家は県の職員住宅だった。前に住んでいた家よりも広い。まだ三上くんは帰っていなかったので、おばさんが「ケイジには内緒よ」と勉強部屋を見せてくれた。

机や本棚は昔と同じだったが、机に出しっぱなしだった算数の教科書は、南小で使っているのとは違うものだった。壁に貼った時間割表も違う。月曜日の一時間目から算数なんてかわいそーっ、と笑った。南小では、月曜日の一時間目はどのクラスでも学級活動の時間だ。南小のほうがいい。ずっといい。

①部屋に入ったときに、すぐに気づいたことがある。

三上くんが引っ越す前に、仲良しの友だちみんなと写真を撮った。すぐにプリントをして、みんなでお金を出し合って買った写真立てに入れて三上くんに渡した。

三上くんはそのプレゼントをすごく喜んでくれて、「部屋に飾っとくから」と言った。少年たちも「そうだよ、ずーっと一緒だから」「もし新しい学校でいじめられても、俺たちがついてるから」とうれしそうに言った。

でも、部屋のどこにも写真はない。何度見回しても、同じ。だから——写真なんて最初から探さなかったんだ、ということにした。

「トシくん、カルピスつくったわよお」

台所にいるおばさんに呼ばれて部屋を出る前、②蛍光灯のスイッチの紐の先に、軽く一発、右フック*をぶつけた。

紐は思いのほか大きく揺れ動いて、ろくに狙いをつけずに放った二発目のパンチは、空振りになって

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

しまった。

　正午を回った頃、やっと三上くんが帰ってきた。居間でテレビを観ていた少年に、「おーっ、ひさしぶりぃ！」と笑顔で声をかける。息が荒い。顔が汗びっしょりになっている。自転車をとばして帰ってきた――早く会うために帰ってきてくれた、のだろうか。

　③一瞬ふわっとゆるんだ少年の頬は、三上くんと言葉を交わす間もなく、しぼんだ。

　三上くんはおばさんに「お昼ごはん、なんでもいいから、早く食べれるものにして」と言ったのだ。

「④一時から五組と試合することになったから」

　おばさんは台所から顔を出して、「ケイジ、なに言ってんの」と怒った。「トシくんと遊ぶんでしょ、今日は」

　三上くんは、あっ、という顔になった。あわてて「わかってるって、そんなのわかってるって」と繰り返したが、あせった目があちこちに動いた。

けろっと忘れていたのだろう。ソフトボールの練習中に急に「試合しよう」という話になって、「じゃあ、俺も行く」と安請け合いしてしまったのだろう、どうせ。

「ケイジ、あんたねえ、せっかくトシくんがわざわざ遊びに来てくれたのに、迎えもお母さんに行かせて、ずーっと待ってもらって……もうちょっと考えなさい」

　しょんぼりと肩を落として「はーい……」と応える三上くんよりも、少年のほうがうつむく角度は深かった。⑤おばさんが味方についてくれたのが、うれしくて、悔しくて、恥ずかしくて、悲しい。

（重松清『南小、フォーエバー』）

＊フック＝ひじを曲げて横から打つパンチ。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　――線①「部屋に入ったときに、すぐに気づいたことがある」について、次の⑴・⑵に答えなさい。

⑴　どんなことに気づいたのですか。次の文の□にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

□□□□□□□□と撮った写真が部屋にないこと。

⑵　「すぐに気づいた」ということから、トシユキ（少年）についてどんなことがわかりますか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　写真を友情のしるしとして大事に思っていること

イ　三上くんの部屋に初めて一人で入ったこと

ウ　三上くんがいじめられていないか気になっていたこと

エ　三上くんと同じ学校に通えないことを残念に思っていること

□

問二　――線②「蛍光灯のスイッチの紐の先に、軽く一発、右フックをぶつけた」とありますが、ここに表れているトシユキの気持ちとして最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　おばさんが親切にしてくれることへの感謝（かんしゃ）と喜び

イ　三上くんにだまって部屋に入った後ろめたさと興奮（こうふん）

ウ　三上くんが以前と同じでないと感じた動揺（どうよう）といらだち

エ　なかなか帰ってこない三上くんに対する不満といかり

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　――線③「一瞬ふわっとゆるんだ……しぼんだ」とありますが、このときのトシユキの気持ちをまとめた次の文の□にあてはまることばを文中からそれぞれ書きぬき、〔　〕にあてはまることばをそれぞれ考えて書きなさい。

自分に早く□□ために急いで帰ってきてくれたのかと〔　　　　〕思ったが、早く□□□□□を食べて試合に出かけるためだとわかり、〔　　　　〕なった。

問四　――線④「一時から五組と試合することになった」とありますが、これはトシユキにとってどんなことを意味していますか。

□

問五　――線⑤「おばさんが味方についてくれたのが……悲しい」とありますが、このときのトシユキの気持ちを説明したものとして最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　おばさんがたしなめなければならないほど三上くんがいやな性格になっていることにショックを受けた。

イ　おばさんが気をつかって間に入ってくれるほど三上くんと遠い間がらになったことを実感した。

ウ　おばさんがトシユキの味方になったことで、三上くんと敵対関係にあることを痛感（つうかん）した。

エ　おばさんが味方したくなるほど自分が元気を失っていることを思い知らされた。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈トシユキ（少年）は、三上くんの誘いでソフトボールの試合に来ていた。〉

「いま、俺ら九人いるから……トシ、ピンチヒッターでいい？　途中で、絶対に出番つくってやるから」

泣きたくなった。来るんじゃなかった、と思った。

「……やっぱり、帰るから」

少年は言った。校門前のバス停から駅行きのバスが出ているのは、さっき確かめておいた。

「えぇーっ？　なんで？」と驚く三上くんに「バイバイ」と言って、最後にがんばって笑って、ダッシュで校門に向かった。

三上くんは追いかけてこなかった。

次のバスは五分後だった。ベンチに座って、ぼんやりと足元を見つめていると、①グラウンドのほうから歓声が聞こえてきて、また目に涙がにじみそうになった。

予定よりもずっと早い列車で帰ることになる。まだ明るいうちに家に帰り着けるだろう。急いで出かければ、南小のグラウンドで遊んでいる友だちにも会えるかもしれない。早く帰りたい。みんなと遊びたい。もう「三上、元気かなあ……」なんて言わない。これからは、ずっと。

②そろそろだな、と膝に載せていたリュックサックを背負って立ち上がったら、「トシ！」と校門から三上くんが駆けてきた。

「③悪い悪い、ごめんなあ……ほんと、ごめん、守備のときは抜けられないから」

一回表の五組の攻撃が終わると、全力疾走してきたのだという。少しでも時間がとれるよう、ふだんは三番の打順も九番に下げてもらった。

「トシのこと忘れてたわけじゃないんだけど、やっぱり、こっちもこっちでいろいろあるから」

「……わかってるから、いいって」

「バスが来るまで一緒にいるから」

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「いいよ、そんなの悪いから」

「でも……せっかく来てくれたんだし」

三上くんはグローブを二つ持ってきていた。ボールもあった。「ちょっとだけでも、キャッチボールしよう」と笑って、自分が使っていたグローブを少年に差し出した。

少年が黙(だま)って受け取ると、三上くんは照れくさそうに笑った。少年も目を伏(ふ)せて笑い返す。

小走りに距離(きょり)をとった三上くんが、山なりのボールを放った。それを軽くキャッチしたときに、気づいた。

〈南小４年１組フォーエバー！〉

グローブの甲(こう)に、サインペンで書いてあった。転校したての頃(ころ)に書いたのだろう、④黒い文字は薄(うす)れかかっていた。

へへっ、と少年は笑う。うれしいのか悲しいのかよくわからなかったが、自然と笑みが浮(う)かんだ。

「なに？」とけげんそうに訊(き)く三上くんにはなにも答えず、ボールを投げ返した。

三上くんが「バス、来たぞ」と言った。振(ふ)り向くと、道路の先のほうにバスの車体が小さく見えた。

⑤「ラスト一球」――さっきより少し強いボールを、少年は右手をグローブに添(そ)えて捕(と)った。

〈南小４年１組フォーエバー！〉の文字の上を右手の親指でなぞると、うっすらと積もっていた砂埃(すなぼこり)が拭(ぬぐ)い取られて、少しだけ、文字が鮮(あざ)やかになった。

（重松清(しげまつきよし)『南小、フォーエバー』）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　――線①「グラウンドのほうから歓声が聞こえてきて、また目に涙がにじみそうになった」とありますが、このときのトシユキの気持ちを説明したものとして最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　自分は三上くんにすっかりきらわれてしまったのだ。

イ　三上くんは南小のことなどまったく覚えてはいないのだ。

ウ　三上くんは自分とはかかわりのないところにいるのだ。

エ　自分は三上くんのことを何も知ってはいなかったのだ。

□

問二　――線②「そろそろだな」とありますが、何がそろそろなのですか。

□

問三　――線③「悪い悪い」とありますが、このような三上くんの思いが行動に表れている部分を文中からさがし、その初めと終わりの四字を書きぬきなさい。

□□□□～□□□□

問四　――線④「黒い文字は薄れかかっていた」とありますが、黒い文字とともに何が薄れていると言えますか。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　――線⑤「『ラスト一球』……捕った」とありますが、このときのトシユキの気持ちを説明したものとして最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　三上くんが自分と遊んでくれるのはこれで最後だと言われた気がして、落ちこんでいる。

イ　三上くんのえんりょのないボールに、二人の気持ちのすれちがいを感じている。

ウ　三上くんがもうキャッチボールに興味(きょうみ)がないことがわかり、がっかりしている。

エ　三上くんの気持ちのこもったボールから、二人の友情を感じ取っている。

問六　トシユキが、ばく然とした思いをかかえながらも、ある種の満足感を得ていることがわかる表現を文中から十字で書きぬきなさい。

問七　この文章の主題は何ですか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　過去にこだわる気持ちを乗りこえる少年の心の成長

イ　はなれた場所にいる人間が心を通いあわせることの難(むずか)しさ

ウ　決して永遠ではあり得ない人の気持ちの移ろい

エ　気持ちのすれちがいから生じた少年の心の迷い

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十四講　文学的文章⑧

一題目

問一 (1) 仲良しの友だちみんな
　　 (2) ア
問二 ウ
問三 会う・(例)うれしく・お昼ごはん・(例)悲しく
問四 (例)三上くんと遊べないということ。
問五 イ

二題目

問一 ウ
問二 (例)バスが来る時間。
問三 一回表の　～　らった。
問四 (例)南小４年１組の仲間に対する思い。
問五 エ
問六 自然と笑みが浮かんだ
問七 ア

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。